

地域医療連携室ニュース

発行 公立阿伎留医療センター

編集 地域医療連携室

TEL 042(558)0321

FAX 042(550)5190

当院は、急性、亜急性期疾患を担う中核病院として、近隣医療施設との密接な連携を保ち住民と病む人が満足できる安心、安全、かつ納得の頂ける質の高い医療サービスを提供できる医療センターを目指しております。ご指導のほど宜しくお願い致します。

今回から「地域医療連携ニュース」では、各科の主要病態・症状の治療内容を担当医師から紹介させていただきます。今月は、「がん性疼痛管理」です。

「がん性疼痛管理について」



なるべく在宅で過ごしたい、がんの患者さんが増えています。地域医療のなかで、もう少し、がん性疼痛の管理が普及すれば、多くの患者さんに福音をもたらすと思い、疼痛管理の始めの一步を書いてみました。

がん性疼痛のコントロールは、はじめてみれば、それほど困難なことではなく、また、効果もきちんと現れるので、やりがいもあります。

緩和科長 戸澤育文

コツは、まず、オピオイド(麻薬)の少量を使いこなすことです。少量の範囲であれば、副作用も少なく、安心して経験することができます。麻薬の量がだんだん増えて、不安になったら、病院に紹介すればよいのです。自分が安心して使える量をだんだんに増やしていけばよいのです。

具体的にいきますと、オキシコンチンを1日10mgから始めて、1日40mgまでは自家薬籠中ものにしましょう。1日40mgまで使いこなせれば、それだけで、多くのがん患者さんを痛みから救うことができるでしょう。

麻薬の話が先になってしまいましたが、がんの痛みに対しても、まずはNSAID(非ステロイド性消炎鎮痛薬)から始めます。いきなり麻薬をつかうこともあります、それはやはり慣れてからにしましょう。

がん性疼痛に対するNSAIDの使い方は、頓用にしないことです。痛くても、痛くなくてもきちんと飲むことが大切です。そのためには、胃薬を必ず併用することです。

麻薬には副作用もあります。しかし、重い副作用はないと考えてよいでしょう。呼吸抑制、意識障害といった、対処に困る副作用は、先ほどの量では、まず起きないと考えて大丈夫です。そのほかの副作用は対処が簡単です。主なものは、便秘と嘔気です。下剤と制吐剤で対応します。これも、起きてからではなく、麻薬と同時に開始することがコツです。

もうひとつ、麻薬の量を急に増やさないことが大切です。患者さんはまだ痛いのです、と言われて、すぐ増やしたくなるのが人情ですが、これも慣れるまでは、3日間はじっと我慢です。これもコツです。オキシコンチンを急に増やしてはいけません。そのかわり、オキノームという便利な薬があります。麻薬の頓服です。これはとりあえず、痛い時に2.5mg(1包)飲んでもらいます。この量なら安心です。

さあ始めて下さい。困ったことがあったら、何時でもご連絡下さい。

リハビリテーション外来診療の開設についてのお知らせ

2月より、毎週火曜日の午前9時から12時に外来診療を開設いたします。完全予約制になります。予約は、地域医療連携室に当院専用の『FAX 受診申込書』、『診療情報提供書』をファックスして下さい。(FAX 番号042 - 550 - 5190)。医師に確認をし、予約日等を記入した『診察予約票』を送信いたします。診療情報提供書でご状態を確認してからの送信となりますので、多少お時間がかかりますがご了承願います。尚、ご不明の点がありましたら、地域連携室にお問い合わせ下さい。

3月の『地域医療連携ニュース』で、リハビリテーション科のご案内を致します。

1月の医局講演会のお知らせ

日 時: 2月22 日 (月) 19時15分～20時30分

会 場: 地下1階 講堂

演 題: 外来で出来る呼吸リハビリテーション

講 師: 東京医科大学八王子医療センター

呼吸器内科教授 一和多 俊男 先生

参加費: 無料

12月の紹介患者数をご報告致します

FAX による紹介は95件、紹介状持参による紹介は266件、合計361件でした。CT・MRIの検査のFAX 紹介は29件でした。ご紹介誠にありがとうございました。

なお、FAX の申込時間は、『FAX 受診申込書』で、9時から16時30分になっております。

公立阿伎留医療センター宛専用の情報提供書、封筒等用意しておりますので、御用命の節は、下記担当者までご連絡をお願い致します。また、地域医療連携に関するお問い合わせについても、担当者がお受け致しますのでご連絡下さい。

地域医療連携室 担当責任者: 茅野和子 電話番号 042 - 558 - 0321 内線2123